

COLLEGE INFORMATION



甲子園短大通信

甲子園短期大学 発行

平成二十二年 学内成人式  
 ～厳粛な中にも温かいメッセージ～

一月十四日(金)、学院高校講堂において、久米知子理事長先生のご臨席を賜り、「平成二十二年度学内成人式」を実施しました。学内成人式は本学独自の行事として、昭和五十四年から行われ、今年度で三十二回目を迎えます。新成人の門出を全学を挙げて祝福する式であると同時に、卒業を間近にひかえ、社会に飛び立とうとする二回生が、自らの責任と義務を再確認する厳粛な誓いの場でもあります。

【第一部】

二回生は、教員に見守られながら、正装に身を包み、新成人に相応しい引き締まった面持ちで、第一部の式典に臨みました。成人となる先輩たちをお祝いするために一回生も参加し、終始厳粛な雰囲気の中で執り行われました。

木本好信学長からは、「本学で身につけた校訓三綱領を社会の中で実践し、周囲に伝え広げながら、自信を持って活躍されることを期待しています」との祝辞が述べられました。それぞれの夢に向かって、新たに旅立つ二回生に対して、温かい励まし



のエールとなりました。それに応えて、学生代表の学友会長 鈴木彩未さんが、学内成人式を挙げていただいたお礼の言葉とともに、「成人としての自覚と責任をしっかりと心に留め、自立した一人の女性として社会に貢献できるように強く歩んでいきたいと思えます」と若さ溢れる「誓いの言葉」を述べました。

学院からの記念品として、二回生全員に台付袱紗が贈られ、幼児教育保育学科の辰巳遥香さんが代表していただきました。

【第二部】

学内成人式第二部では、落語家の桂吉弥氏を講師として「成人を迎える皆さんへ」と題しての講演会を行いました。

桂吉弥氏は、神戸大学教育学部在籍時に桂米朝師匠の落語と出会われ、弟子入りを決意されました。米朝師匠の内弟子修業を経て、今では大阪を中心に数多くの落語会を持たれています。

文化庁芸術祭新人賞および兵庫県芸術奨励賞を受賞され、NHK大河ドラマ「新撰組」や、連続テレビ小説「ちりとてちん」に出演されました。現在は、NHK「生活笑百科」と毎日放送「ちちんぷいぷい」にレギュラー出演するなど、様々な世代に落語の魅力を伝えるよう多方面でご活躍です。

講演は、舞台上に設けられた高座での落語を織り交ぜながらの一時間でしした。下積みの仕事を経験することの大切さ、いろいろな人との出会いから人の思いをくみ取ることの必要性など、二回生へのお祝いの言葉をいただきました。「時うどん」および「ちりとてちん」の二席の古典落語では、すばらしい話芸に感動しました。時間が短く感じられる講演会でした。

最後に「元気と若さのある二十歳の皆さんには自信が持てるような学生

生活を送り、社会に新しい力を注いでほしい」と新成人に対する励ましのメッセージをいただきました。



桂 吉弥氏

学内成人式に出席して

学友会会長 鈴木彩未さん

第一部では、緊張で足を震わせながら「誓いの言葉」を読ませていただきました。ご期待に添える成人にならなければと身の引き締る思いでした。

第二部では、「人生の中で行うことに無駄なことなど無い」という落語家桂吉弥氏の言葉をお聞きし、何事にも前向きに取り組むことの大切さを改めて実感いたしました。また、初めて生の古典落語に触れ、落語の世界を知る貴重な機会となりました。

成人になった私たちのために、このような場を与えてくださり、心から感謝しています。

**「社会から学ぶ」**  
 フィールドワークと特別講義を中心に  
 生活環境学科

生活環境学科では、「社会から学ぶ」を重視し、社会で活躍される方々と地域社会との交流を通じた実践教育を行っています。



一回生が「六甲アイランドに「甲の家」の利用者の方々と神戸にある「なぎさの湯」において授業で習った「トーンチャイム」を披露したり、園芸を通して地域交流を行っているNPO法人メリーポピンズの会の皆さんと、同法人で管理運営されている逆瀬台デイサービスセンターの「メリーポピンズの庭」で花壇苗の鉢上げなどいっしょに作業をしたりして、地域の皆さんと交流を行いました。

生活環境専攻の食と健康コースでは、一回生がエキウムハチミツを使ったロールケーキの開発でお世話になった菓子工房「ラ・パニーユ」(西宮市)の村上一晴オーナーシェフから、ミルクチョコレートトムースとさくさくロシエという本格的なお菓子の作り方を習うことができました。また、本学非常勤講師でもあり、テレビなどで活躍されている卜部吉恵先生からは、湯葉の奉書巻きなど本格的な和食をお教

えいただきました。尼崎市公設地方卸売市場の方にも来ていただき、市場の役割と生鮮食品の流通について学びました。ブライダル企画コースの一回生は、神戸のレストランウエディング施設「ブルーミンメドー」において初めてのインターンシップを行い、実際の結婚式にも参加させていただき、プロの厳しさとともに喜びも感じることができました。

介護福祉専攻の二回生は二年間の集大成として、十月から五週間に及ぶ最後の介護実習を終え、利用者一人一人の人生を支え寄り添うことの大切さを学び、改めて介護福祉士のやりがいとすばらしさを実感できました。十二月中には全員が介護専門職として福祉施設への就職内定をいただき、今後の活躍が期待されます。



学生自身の活躍としては、食と健康コースの一回生二名が、大阪府生菓子青年クラブ主催の「和菓子甲子園」の大学・短大部門において見事「銅賞」を受賞しました。当日は、「うさぎ」をテーマにした創作和菓子を実際に作り、厳しい実技審査がありました。また、作品への思いなどのプレゼンテーションを行うなど、和菓子のプロの方々を前に緊張しましたが、貴重な体験をすることができました。

**新たな幼児教育保育学科を  
目指して**  
 新カリキュラムと教育内容の充実へ

保育所保育指針の改定(平成二十年厚生労働省令告示)を受け、平成二十三年度入学生から養成カリキュラムを見直すことになりました。新たな保育指針は、保育士の役割や機能を明確にすること、保育所が地域における保育の専門機関として社会的責任を果たすことを求めています。

また、保育と家庭支援を担う保育士の専門性の向上、養護と教育の一体化、保育課程の編成、自己評価による保育の改善等、保育の質の向上も挙げられています。

本学では、指針改定の趣旨を踏まえ、保育課程や保育相談支援に関する科目を新たに必修とし、音楽や造形等の表現技術を現場での実践に合わせた教育内容に変更しました。また、独自の科目として、保育現場でのリスクマネジメントに対応できる力をつけるための子どもの安全と救急や、いのちと命倫理・臨床心理、子どもの発達にに応じた遊びやリトミックなど、保育者としての専門性をより高めるための教育内容を導入しました。



内容の充実に向け、平成二十二年度からさまざまな取り組みを行っています。その一つがフィールドワークの実施です。一回生は佐渡裕指揮によるクラシックコンサート、二回生は大谷記念美術館で絵本原画展を鑑賞しました。

二つ目は、保育の場面で実践を行っている専門家を招いての特別授業です。絵本の読み聞かせやリトミックの実践的授業、幼児スポーツ活動など保育実践に役立つ知識や技術を学びました。



絵本の読み聞かせ



↑幼児スポーツ活動

また、複数の授業が連携した総合的表現活動としてのクリスマススイベント「幼児にとつてのクリスマス会」を一・二回生合同で実施し、パネルシアター、仕掛け紙芝居、ミュージックベル、パペット人形等の成果を発表しました。学生と教員がともに学び合う良い機会となりました。

三つ目は、従来から取り組んできた甲子園学院幼稚園や地域の保育所での観察実習、実習や就職でお世話になっている園の園長先生や卒業生による実践的講話等、保育現場をより深く知る学習を行いました。

### 平成二十二年 度 大 学 祭 盛大に開催

十月十七日(日)、テーマ「Love & Smile」やまとなでしこの夢のもと、元気で華やかな大学祭が開かれました。

学院食堂では、学生各クラスの創意工夫を凝らした模擬店と、話題のエキウムハチミツの販売も行ったバザーに加え、「やまとなでしこ選手権大会」と名づけての新企画イベントが大盛況でした。りんご皮むき競争、腕相撲大会、スマイルコンテストの三種目で、技と力と笑顔を競い合い、クラスメイトの健闘に大きな声援を送る学生たちの姿は、普段見ることのできる一面がキラリと輝いたひとときでした。学生以外からも多くのエントリーがあり、盛り上がったイベントとなりました。



りんご皮むき競争

園芸実習場での植木市は、園芸部がタネから育てた苗を求めて、地域の常連の方がたくさん来てくださいました。また、同窓会総会にも多くの卒業生が訪れ、旧交を暖めていました。

本館三階で行われたステージ発表は、各クラスによる歌やダンスなどのプログラムが続き、元氣溢れるバラエティーに富んだ内容でした。

教員タイムは、素敵な賞品が当たる「ジャンケン大会」と、学生のお父さんお母さん世代には懐かしい「ヤングマンーY M C A」の振り付きパフォーマンズで、会場が大合唱。最後は二回生の二年分の思いの詰まったダンスメドレーでフィナーレを迎えました。

今年もたくさんの方をお迎えし、在校生、卒業生そして教職員の思いがひとつになった素晴らしい大学祭でした。



クラスパフォーマンス

### ◆ 学友会新役員決まる ◆

十二月十七日(金)、学生総会が開かれ、平成二十三年度の学友会役員が承認されました。活躍を心から期待します。

会長	宮川 恵理	幼児教育保育学科
副会長	辰巳 鈴佳	生活環境学科
副会長	竹中 理紗	幼児教育保育学科
総務	小畑 結	生活環境学科
総務	芦田美和子	幼児教育保育学科
書記	辻本 鮎美	生活環境学科
書記	佐藤真理子	幼児教育保育学科
会計	高橋美紗都	幼児教育保育学科

### 「短大書道展」開催される

師走の恒例行事となりました「甲子園短期大学書道展」が十二月七日(火)十二月十二日(日)、西宮市立北口ギャラリーで開催されました。学生や卒業生のほか、中川攝陽先生、久米翠娥先生の協賛出品もあり、いづれ劣らぬ大力作でした。  
二回生は卒業研究として、一回生は授業の一環として、夏休みの錬成会で制作した作品の発表の場でもあります。  
会場は、完成度の高い作品とともに、御祝に届けられたたくさんのお花に彩られ、来場者にひとときの安らぎを与えていました。  
また、会期中の来場者は六百数十名を数え、祝電や御祝の品も多数届けられ、盛会裏に終了いたしました。



### 卒業研究発表会が開催されました



二月三日、平成二十二年 度卒業研究発表会が開催され、一回生も参加し、二回生が一年間の

成果を発表しました。論文部門では、幼児教育保育関係の論文二編、介護のケーススタディ三編、ブライダル関係レポート一編の口頭発表がありました。すべての発表でパワーポイントが使われ、興味を引くよう工夫がされていました。実技部門では、両学科それぞれの特色を生かし、多彩な二十五作品が展示されました。その中には、介護の

ケーススタディをポスターにまとめて展示するという新しい試みもありました。いづれの作品も時間と労力をかけたことをうかがわせるもので、展示会場では、熱心に作品を見ている学生の姿が多くありました。音楽部門では、三名のピアノ独奏と、二名の奏者による連弾一曲が披露されました。特にリスト作曲「ハンガリー狂詩曲第二番」に取り組んだ連弾は、息のあった巧みな演奏に感嘆の声があがりました。  
論文・展示・音楽の各部門で、卒業研究に取り組んだ二回生に対して、一、二回生ともに「強く印象に残った」「考えを深められた」「感動した」などの感想を寄せていました。  
当日の司会進行はすべて二回生が担当し、行事の運営を学ぶ良い機会となりました。

映画と私



准教授 高野 恵子

シネマコンプレックス(以下「シネコン」という)とは一つの建物の中に複数の映画館が集まってできた複合施設のことをいいます。大ききの異なる映画館をいくつか組み合わせ、作品のヒット状況に応じて効率的に運営されています。そこに行けば見たい映画がいつでも見られるという快適さを提供することによって集客効果を上げることが目的とされています。私もその集客効果に乗せられてシネコンに通う客の一人です。

シネコンの魅力は何と言ってもゆったりとした環境と座り心地の良い椅子にあります。私はいつも最後列の中央に席をとるのですが、周囲に気兼ねせず手足を伸ばすことができます。女性一人でも違和感なく入場でき、映画のはしごができるのもシネコンならではのといえます。昨今は放映された映画がすぐにDVD化され茶の間でも観ることができですが、映画館で観る映画の醍醐味は、何といても大画面と音響効果です。照明が落ち、予告編が始まると迫力のある画面と音響がビシビシと体を突き抜ける感覚は茶の間では味わえません。周りの客が食べて

My Favorites

いるポップコーンの匂いやトイレに立つ客の動きまでもが一体化しているから不思議です。

映画は私にとって日常を離れ、感動や興奮、ときめき等の感情を呼び覚ましてくれます。一人の時は文学作品、孫と一緒にのときはアニメ作品、時にはアクション物で爽快感を満喫しています。ジャンルを問わず架空の世界に浸ることができる映画向きの性格も功を奏し、観た後の二三日は余韻を残した生活を楽しんでいます。年末には「SP野望編」「トイストーリー3」「海猿最終編」「パイオハザード」などで前頭葉を刺激しました。

思えば、私の記憶にある最初の映画は大川橋蔵主演の「新吾十番勝負」のシリーズでした。テレビの普及や娯楽が乏しい小学校低学年の頃です。舞鶴の片田舎の映画館にはゴザが敷いてあり、座布団を持って両親と通った思い出があります。中学生のときには吉永小百合・浜田光夫主演の「愛と死を見つめて」をドキドキしながら友人と観たものです。さすがにゴザではなく椅子式になりましたが、お尻が痛くなるような硬い椅子に座り誰もがスクリーンに引き付けられていたように思います。

「新吾十番勝負」から半世紀たった今、私はシネコンで3Dの眼鏡をかけてリクライニングの椅子に座っています。今後、映画界はどのように進化するのでしょうか。その時代や文化、歴史、社会問題を反映する鏡として発展を遂げることを楽しみに思っています。

特別給付奨学金が授与されました!

本学では、独自の奨学金・支援金制度を設けさまざまな形で学生を支援しています。

学内奨学金には、甲子園学院奨学金と特別給付奨学金があります。甲子園学院奨学金は、学業成績・人物ともに優れ、かつ学業を奨励するに足るものに対し授業料等学費年額の全額あるいは半額相当額が給付されるものです。もう一つは、特別給付奨学金で、今年入学した学生からスタートしました。これは二年間で三回選考され、決められた基準を満たし、かつ成績上位のものに対し五万円授与されるものです。いずれも勉学に励み優秀な成績を収めた学生に対し授与される制度です。

次に、学内奨励金・支援金ですが、これは、本学が定めた資格検定に合格した学生に二万円が授与される資格取得等特別奨励金、公務員試験採用内定者及び別途定める就職先に内定した学生に十万円授与される就職内定特別支援金、短大の学生寮に入寮した入学生に対し、入寮時に二十万円支給される入寮支援金があります。本年度、資格取得等特別奨励金の対象となった資格は、漢字検定二級以上、ワープロ検定二級以上、グリーンアドバイザー、販売士三級、調理師、消費生活アドバイザーがあります。

今回授与されたのはその中の特別給付奨学金です。この奨学金制度は、一回

生時に二回、二回生時に一回の選考委員会が開かれ決定されます。今回は一回目で、一回生前期の成績が対象です。前期の定期試験の成績、履修科目数、受講態度など積極的な学業取り組みが審査され、このたび優秀な成績を収めた九名の学生が決定されました。十二月の特別演習の後表彰式が行われ、学長から五万円づつ授与されました。授与された学生は、「これからもさらに勉学に励み、今後検定試験などにも積極的にチャレンジしたい」と、とても嬉しそうでした。



なお、資格取得等特別奨励金については、今回対象となる学生はいませんが、しっかり勉強して合格し、授与されることを期待します。

甲子園短大通信 第70号

(編集・発行)甲子園短期大学広報委員会  
〒663-8107 西宮市瓦林町四一五  
TEL:0798-1300 FAX:0798-167901  
http://www.koshien-ca.jp